



今月の読み物

p 2、3	総会報告)
p 4、5	台湾・金門島
p 6、7	小林さん書評
p 8	AALAカフェ・英語を読む会・

〒540-0004大阪府中央区玉造1-6-11黒石ビル3F

2024年7月1日 NO 617



6月2日、国労大阪会館にて、第62回大阪AALA定期総会を行いました。議長に高木常任委員を選び総会は始まりました。

総会に先立ち会員物故者お二人（畑中英夫さん、田中修次さん）に黙祷を行いました。

主催者挨拶 姫野理事長
特別報告

「壁面で見える原発被災地の今」報告・安井倫子さん（日本AALA常任理事）

議長よりメッセージを寄せて頂いた団体の紹介

第1号議案の提案を2023年度経過報告・当面の内外情勢を事務局長小松が報告
会計報告と2024年度の予算案の提案を粕谷が行いました。

会計監査報告を（和田・小笠原）行いました。

引き続き2024年度の活動の基調と活動計画の提案を小松が行いました。

出席者23名委任状142人で全て採択・承認されました。

休憩の間、第1回理事会が開催され新役員が姫野理事長より発表。

新役員の挨拶の後、総会アピールの提案と採択がなされ閉会の挨拶を長谷川代表委員が行い全ての日程を滞りなく終了しました。

総会議案、新役員については同封の別文書を御覧ください。

世界を知って日本を変える

総会の全体は、お送りした議案書をみていただくこととし、ここではいくつかの特徴的な事をご紹介します。

学習と理論活動を重視しながら、国際重要課題に取り組みます。

情勢の変化に応じた活動を進めるためには学習が欠かせません。大阪AALAでは今までも、「AALAカフェ」や「英語で世界を読む会」を通じて学習会を定期的に行って来ましたが、対話型の学習会をさらに継続していきます。

又その参加者の枠を広げる意味でも「オンライン併用」も他団体とも協力共同をする中で実施できるように検討してゆきます。

大阪AALA独自の海外ツアーを行います

前号でもお知らせしているように、来年2月に5泊6日の「ベトナム平和友好ツアー」を計画中です。

(日本ベトナム友好協会の協力も確認済みです)
日帰りツアーや、二泊三日までの国内学習ツアーなども旅行社とも相談しながら計画を進めます。

役員数名が新しくなりました。

新しく理事になられた日本共産党大阪府委員会の清水忠史さんの挨拶を受けました。

平和の発言から環境問題まですぐく丁寧でそしてユーモアを忘れず人を笑わせることの上質な清水さんに期待したいと思います。

事務局長は、小松靖昌さんから粕谷武志さんに交代となりました。

小松靖昌さんは事務局次長になりました
同封の役員名簿をご参照ください。



日本AALAでは今年も「第10次の国際署名」提出に伴い2つのツアーを行います。

詳細は追って連絡しますが、今年も奮ってご参加ください

- 「インドネシアツアー」
- 11月24日
- 11月30日

「ラオス平和交流の旅」

- 12月1日
- 12月7日

ラオスが今年の議長国となります。

ラオスは人口1000万に満たない小さな国ですが、その国も又ASEANにおいて、ひいてはアジアの平和、世界の平和にどのよう貢献しているのかを学ぶ事は基調な体験となると思います。

派遣団への参加を呼びかけます

組織の強化に力を入れます。

昨年4月から今年の3月の間に迎えた新会員の5倍の退会がありました。このままでは事務所を維持することも厳しくなります。今の情勢の状態に因應するためにも組織の強化は重要な課題となっています。色々皆様の力をおかしくください。

①地域班づくりをはじめます。
各市区町村の地域ごとに会員の絆と連帯をはかり、地域から新しい市民運動を作るためにも、地域班作りに取り組みたいと思います。

②新会員を増やすことに、今以上の努力を行います。

③財政の強化を行います
西野さんが新しい会計担当になりました。



特別報告

福島・双葉町の壁面をたずねて
津波と原発事故の被災地は今

安井倫子さん・大阪AALA常任理事

震災から13年の復興の

一部です」

現状と壁面の紹介を特別報告として行ってもらいま

した

『豊中退職教職員の会で、

2023年9月福島へ。

この時の、9月15日に
双葉駅の周辺の壁面を探索
しました。

アート集団「オーバーオー
ルズ (OVERALLS)」が作
り上げた、Futaba Ar
ts Districtsの壁画

2010年 72822名
2023年 17993名

磐梯の 山粧で 浜寂し
(産業交流センターの屋上か
ら)

緑の広がる野原

震災遺構 請戸小学校

あら草の 雄々しく茂る野に

廃校をさらす 人の業悲し



今年も国際署名に取り組みます。
第10次国際署名にご協力ください。
大阪は 3000を目標にします。
全国では15000を目標にしています

平和・国際友好団体
との連携交流を強めま
す。

アジアアフリカ連帯機構
(AAPSO)、アジア・
アフリカ・ラテンアメリカ
連帯委員会 (日本AALA)
に結集し、「核兵器のない
世界の実現」にむけて積極
的役割を果たしている非同
盟諸国民との連帯・交流活
動を推進していきます。

東アジアでの「友好・協
力条約」締結をはじめ、
「東アジア共同体をめざす
「国際署名」の取り組みを
通じ「ASEAN」と傘下
諸国民との交流・連帯を推
進します。

大阪にも多くの団体があ
り、平和と民主主義を目指
す諸団体との連帯・共同の
活動を引き続き進めます。

シンポジウム
**国連憲章と憲法を生かした
日本外交を**
—対話かミサイルか!
東アジアでの平和構築のために何が必要か—

2024年
日時 **7月14日**
午後1時30分～4時(予定) 資料代 500円

会場 **大阪私学会館 (150人規模)**

形態 **会場参加及びオンライン**
(Zoomによる限定配信)

パネリスト
 君島 東彦
 笠井 亮
 コーディネーター
 高田 宏治

進歩と革新をめざす大阪の会 (大阪支部)
大阪私学会館 151-1-13
〒530-0004 大阪市東淀川区
TEL 06-6357-2412 FAX 06-6357-2413
E-mail: shiseikai@osaka.or.jp

大阪平和委員会
〒540-0012 大阪市東淀川区
TEL 06-6357-2412 FAX 06-6357-2413
E-mail: shiseikai@osaka.or.jp

大阪アジア・アフリカラテンアメリカ連帯委員会 (大阪AALA)
〒540-0004 大阪市東淀川区
TEL 06-6357-2412 FAX 06-6357-2413
E-mail: shiseikai@osaka.or.jp

台湾・金門島 「平和のための市民交流の旅」 楠田 るみ 大阪AALA会員



私は今回5月22日〜25日AALA企画の台湾・金門島「平和のための市民交流の旅」に参加しました。3泊4日という短い時間でしたが、台北と金門島に降り立ち、現地の空気を吸い、施設の見学やガイドさんの案内で、台湾の複雑な歴史を知ることができ、アジアの平和を考えるうえで

もとても有意義な旅でした。ちょうど出発の前日、頼みごとで総統の就任挨拶に反発した

とのサービスマス貿易協定を十分な質疑応答をせずに通してしまったことに怒っているのだ。10年前の「ひまわり（学生）運動」が台湾の政権交代のきっかけを作ったと言われています。

現在のひまわり運動（抗議運動）がどのような広がりを見せるか、関心を持って見ていきたいと思うと同時に、今の日本で「ひまわり運動」がどうして起きないのだろうか、起きてもおかしくないのにと、思っていました。

1日目最初の見学は、二二八国家記念館、歴史を感じさせる重厚な建物です。



い歴史を乗り越えて、教育会館の展示物や、宣伝活動によって民主と自由の価値を伝え、人権と平和の礎をより確かなものにするための努力がされているのだと感じました。

2日目は国家人権博物館を見学。

戦後、台湾では1949年から1987年まで28年間戒厳令が敷かれていました。

一党独裁下の台湾では、特務機関、軍関係者、憲兵、警察などが「共産党スパイ」を捕まえる目的で、政府に意見を有識者や、民主的活動家、市民、それ以外にも、単に読書会に参加し

ガイドさんが言うには、「中国がまたやっつてる。（ハッハッハ）。そんな感じですね。」「台湾の人は誰も中国と戦争なんかしたくない、と思ってるんですよ」と。ホッとしました。それよりも驚いたのは、私たちが行く前日（21日）若者たちを中心に3万人の市民が立法院（国会）を取り巻いたとのこと。24日には10万人もの市民が抗議に集まったという。

いったい何を怒っているのか？ガイドさんの説明によると、立法院（国会）で多数を占める野党が、中国

たことのある学生までも逮捕し尋問や拷問にかけ、その数は台湾全土で数十万人以上と言われています。この白色テロの歴史的な現場、ひどい監獄の様子がリアルに見ることができま

私が感じたのは、台湾はこういう負の歴史をちゃんと次世代に伝える努力をしていることです。

たくさんの中学生たちが見学に来ていました。パンフレットに「記憶しなければ過ちを繰り返すことになるからだ」と。重い言葉です。



つぎの見学は、アマの家・女性人権館。

アマとは、おばあちゃんを親しみを込めて呼ぶ言葉。第二次世界大戦中の日本軍の慰安婦にされたアマたちのミュージアムです。いただいたパンフレットの表紙には蝶々が描かれていて「命の傷を乗り越え、前進する力を引き出し、歴史の傷を平和の礎にし」と書かれています。展示物はとても工夫されていて、アマたちに寄り添う暖かさが感じられ、若いスタッフのセンスの良さに感心しました。

ただ、資金不足のためこのミュージアムの維持にご苦勞されているとのこと。次は3時〜6時まで中央研究院で3人の若い研究者のお話を聞きました。

テーマは、「台湾海峡における平和」。中国との関係、独立がいいのか、今のままでいいのか、戦争にしないために何ができるか、など世論調査や、世界の情勢分析を示して講義。中央研究院は人文科学、自然科学、生命科学の3分野の研究を行っており、研究員、アシスタントを含め3000人の職員がいて、研究に没頭できる環境に見えました。日本にはこのような研究機関はないと思います。

私が驚いたのは、3月20日に「米ウクライナに平和を、米中戦争はいらない、台湾は自主を、大国とは友好的で、等距離の関係を維持し、国家予算は社会福祉、気候変動緩和に使え、戦争や軍事に使うな」という趣旨の格調高い反戦声明を台湾の学者たちが発表し、37人の学者、研究者が賛同署名をしたということ。武力で平和は作れない、対話こそが平和への道だ、というAALAの思いと一緒だと嬉しくなりました。(詳細は紙面の都合で割愛)

3日目。金門島に飛行機で渡りました(約1時間)。金門島出身の日本語ペラ



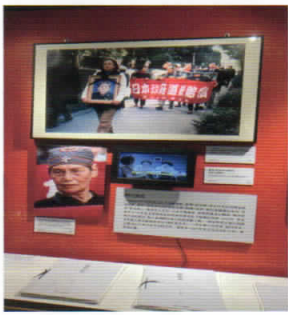
ペラ31歳の許さんがガイドです。金門島からは天気の良い日には中国廈門(アモイ)が見えるそうですが、あいにくの雨で残念でした。日本のテレビが、中国がこの辺りで軍事演習していると報じていましたが、全くその気配はなく平常そのものでした。

許さんの案内で街歩き。



許さんは台湾を取り巻く世界情勢について「台湾と中国。同じ民族、同じ歴史を経験し、理解できる関係だが、納得できない。」と話しました。理解できるが納得できない・・・複雑な台湾の人の気持ちの表現かと感じました。研究員の先生も「台湾海峡で何ができるか?また、模索中だが、言えることは戦争しないために中国、台湾が話し合う事、平和への世論が大事だと思う」と言われました。まさにAALAと同じ、そして日本国憲法9条が世界の平和に求められていると強く感じました。

私のつたない感想レポートをお読みいただきありがとうございます。 (2024年5月30日)



許さんは、街おこしを若者たちでプロデュースをしているそうで、この地域の暮らしが垣間見える路地の中や商店街を案内してくれました。散髪屋さん、漢方薬屋さん、ミシン屋さんなど台湾



紫 金陳 「檢察官の遺言」
 (原題) 「長夜難明」大久保洋子訳
 早川書房) を読む

小林保夫

はじめに

本書の帯には、「スーツケースから発見された遺体。それは、中国の現体制の恐るべきタブーを暴く」、「闇に葬られた正義 檢察官の信念が暴く巨悪」、「社会派ミステリの傑作」等の太字が躍っていた。

私は、こんな文字から、今日の中国社会で、いかにして「社会派」ミステリーが成り立つのか、刑事司法の実態はどうなっているのだろうかー多少ともこのような関心に答えてくれることを期待してこの作品を手にとった。

私は、これまで中国の現代作家の作品をそれなりに読んできたが、ミステリー、とりわけ現代作家の「社会派のミステリー」といわれような作品を読んだことがなかった。

今日の中国で、全体主義

国家によって統治された市民の恐怖を描くジョージ・オーウェルのディストピア小説「1984年」のような作品以外に社会派のミステリー作品が成り立つのかという懐疑的な先入観があったからである。

あらずじ

2013年3月2日、うららかな土曜の午後、江市地下鉄1号線、文化広場駅。大きなスーツケースを引きさずって電車を待っていた男が警備員に追及された。スーツケースには全裸の死体が入っていた。男は弁護士張超、死体は元検事江陽であった。

そのニュースは、たちまち大騒ぎを引き起こした。そして、翌2014年3月9日、新聞は中国共産党省委組織部の夏立平副部长が、前日3月8日に飛び降り自殺をしたことを報じた。

この物語の発端は、2001年8月30日に遡る。この日、侯貴平という江華大学法学部の3年生の学生がボランティア教員として平康県の苗高郷という山間の地方都市の小学校に赴任した。

侯は、正義感の強い優秀な学生であった。そこで、侯は、教育支援の熱意にあふれ、子どもたちの将来を考えると子どもたちに接した。

ところが、6年生で10歳にも満たない貧しい家の少女が妊娠して学校に来なくなつた。

中国では14歳未満の女性と性的関係を持つことは強姦罪にあたりとされる。しかし、農村では、未成年の女の子が妊娠しても、その子が強姦されたと言いつても出さない限りはいいことではなく、男のほうはその子と結婚するか金を払えば済む。侯には対処のしようがなかった。

さらに、同じ6年生の翁美香という少女が、放課後居残っていたところ、岳軍というチンピラ少年に無理矢理連れ去られ、後に農薬自殺を図り、死亡するに至るといふ事件が起こつた。

侯は、強い正義感からこの件の究明についても省の警察庁や検察院に訴えたが、いずれもこれを受理しなかつた。この事件を追及しようとした侯に対して岳が暴行を加え、あるいは買収を図り、侯がこれに応じなかつたところ、岳は、笑いながら

「侯先生、先生は大学生で前途は無限だ。ほんとの話、世の中つてのはそんなに簡単じゃない。この件に関わっちゃいけないよ。そもそも関わりきれぬもんじやないし、これ以上いけば面倒になるだけだ。県にも市にも何度も行つて、関わろうとした人がいましたか？」

これ以上触れ回つたつて何の結果もでやしない。なんだつてみんなを面白くない目に遭わせようとするんです？」と冷たく笑つた。

その夜、寡婦の丁春妹が性的関係を求めてきた。ところが、その年11月16日、江華大学は、侯が誤つてダムに落ちて死んだと発表した。この発表は、世間への影響を考へて行われたもので、警察の捜査記録によると、「11月16日夜11時、苗高郷の丁春妹という女性がボランティア教員の侯貴平に寮の部屋に連れ込まれて強姦されたと通報していた。警察は、検死・鑑識の結果侯が女子児童に性的虐待をおこなない、女性を強姦したと断定した。証人も物的証拠もそろつていた。」というのであつた。

2003年、江陽は、侯と同じ江華大学法学部を卒業し、平康県清市検察院所属の檢察官として赴任し、そこで、侯貴平の事件を知つた。江は、優秀な檢察官で正義感にあふれた檢察官であつた。

同市の檢察院の檢察長の知遇を得て、ことが無ければ立身を約束されていた。

(P7へ)



(P6)

しかし、江は、侯貴平の事件を知って、当初は、むしろ恋人であった同上検察庁の娘に叱咤されて、ようやく事件を調査するといふ対応であったが、次第に事件に多くの疑問を見出し、事件の真相の解明に没頭することとなった。

そして侯貴平の「強姦事件」が、市の警察、財界の有力者、その手先である岳軍などによって捏造された冤罪であることを知った。

この間、事件を闇に葬るために、証拠の隠滅、暴力殺人、司法関係者に対する誘惑・迫害など幾多の無法が平然と行われたことも判明した。

しかも、このような無法は江にも向けられ、江は、刑務所に送られ、検察官の資格を剥奪され、出獄後は、服役中の職業訓練によって得た携帯電話の修理を業として糊口をしのぐこととなった。

直接の証拠がないため、侯貴平の事件や夏立平をめぐる児童に対する性虐待事件が闇に葬られることを恐

れた江や弁護士張超を初めとする関係者が慎重に策を練って江陽の死体の入ったスーツケースをめぐる頭書の事件を惹起することによって、ついに江らの期待通り、隠蔽を許さない大事件として、社会、共産党を騒然とさせることとなったのであった。

ちなみに、江は、肺癌のため死期が迫っていたことから病死するにいたり、死体でスーツケースに収められるという仕儀となったものである。

そして、作者は、作品の最後を「二〇一四年七月二十九日、巨魁が墜ちた。」という言葉で締めくくった。

この言葉は、夏立平が自殺したことを評する形容としては不自然である。この言葉の真の意味をどう理解するかは、当時の中国共産党の幹部層の動きと切り離せない。

私の感想

今日の中国にあっては、中国共産党が政治・社会体制の頂点にあり、司法もか

かる体制の下で、その一環に位置づけられていると理解される。

しかし、科学の進歩は、独力で、ロケットを月の裏側に打ち込み、宇宙空間に宇宙ステーションを組み立てるといふ歴史上最先端の成果を達成することは出来ても、政治や社会の存立の基礎を、人間の尊厳やその不可欠の土台である人権の擁護を基本とする民主的な体制に組み立てることは容易なことではない。

人間の何百年にもわたる苦難と叡智の歴史的所産である人権と民主主義の確立という営為にとって、3千年以上にもわたる皇帝による専制的な統治の歴史を有し、さらに事実上共産党の一党独裁の体制がこれに引き続いた中国においては、同党が人間の尊厳と自由を真髄とする社会主義社会を目指して出発したものの、これまでのところ、人権と民主主義を保障する体制に切り替わる十分な契機を持たなかったといえるのではないか。

私は、本作品は、ミステリー作品とはいえ、刑事司

法の分野においても、専制的な社会体制の歴史と独特の共産党の一党独裁のあいまつ弊害が克服されていないことを露呈しているといふ感想を禁ずることができない。

なお、日本における犯罪捜査が、現在でも、被疑者を警察署のなかの密室に閉じ込め、取調警察官の恫喝と融和的な対応によって自分を迫るといふ少なくとも近代国家（隣国の韓国を含む）に例を見ない前近代的な手法によっていることも言及しておくべきであろう。



【注記】

インターネットで得たものである。国の新刑事訴訟法は、印刷できなかつた。

「中国における捜査段階の被疑者の権利保障について」

馮涛（西南政法大学峰学院）

「中国刑事法の概要

（II）刑事訴訟法」屠錦寧（中国律師）

「中国の新刑事訴訟法と取調べの可視化について」河村有教（海上保安大 学校准教授）

文芸欄 川柳

軍拡を阻止するための潮目時

シヤボン玉ワラすべの先虹が立つ

さえずりにゆるり聞き入る彬の碑

大阪市旭区 近藤 正

西欧の過去植民地今主役

イスラエルカネで動かす米議会

他の星から地球を見ればどう見れる

四條畷市 西川ひろし



第39回 AALAカフェ

「沖縄から日本列島までの大軍拡を考える」

7月20日(土) 13時30分～

場所 大阪AALA事務所

講師 現在 依頼中

英語で世界を読む会 7月例会

5月は、
”The Great Rupturer in Jewish Life”
という記事を読みました。

アメリカのユダヤ人社会のパレスチナ問題
についての意識の変化について興味深い記事
を読みました。

7月は23日(火) 2:00に、AALA事務
所で行います。

テキストは バーニー・サンダースの論文
です

連絡下されば、テキストを送ります。
奮ってご参加ください。

安井 (pichan5@hotmail.com)

< 大阪AALAニュース原稿募集 >

- ツアー報告 ○ 政治や社会世界の動き、等
文字数2000字程度、写真6～7枚程度添付でお願いします
- 文芸欄 紙面の都合上「俳句」「川柳」「短歌」で1人3句

◎ 編集の都合上

締め切りはその月の10日着で願
いします

大阪AALA
へのお誘い

会費 月 800円(年 9,600円) (25才以下は年3,000円) *入会金 500円
*会費の会計年度は毎年4月から翌年の3月です。半期毎に4,800円ずつご入金お願いします
*会費の中に機関紙代も含まれています。月初めに大阪AALAと日本AALAの機関紙を郵送します



Osaka

発
行

大阪アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会 (大阪AALA)

Osaka Asia Afrika Latin America Solidarity Committee

〒540-0004 大阪府大阪市中央区玉造1-6-11 黒石ビル3F

TEL 06-6768-5360 FAX 06-6768-5361

E-mail osakaaala@nifty.com HP:http://osakaaala.la.coocan.jp

